

Ex 4 火山災害と火山地域の砂防コース（予定定員：20名）

申し込み状況により中止する場合がありますのであらかじめご了承ください。

1. 視察コースの概要

高原川流域の地質は脆弱で、北アルプスでは造山運動により年間4～5mm隆起していると言われ、不安定な地質構造を呈して土砂生産が著しい流域です。特に、平湯川流域は活火山焼岳などからの火山噴出物が厚く堆積して荒廃地を形成している状況を視察します。

活火山焼岳は近年においても水蒸気爆発を起こすなど、活発な活動を続けている活火山であり、関係行政機関等で組織された焼岳火山噴火対策協議会において監視観測の他、各種対策を検討し、火山噴火に伴い発生する土砂災害に対して、ハード対策とソフト対策からなる緊急対策を迅速かつ効果的に実施し被害を軽減（減災）する対策を行っている状況を視察します。

また、このコースにおいては、京都大学防災研究所附属流域災害研究センター穂高砂防観測所において研究している流量・流砂量・土砂生産量等の継続観測状況の視察のほか、新穂高ロープウェイ展望台から飛騨山脈（北アルプス）の山々を一望する山岳観光を楽しめる他、火山の恵み（足湯）も体験できるコースです。

2. 視察箇所

(1) 主な視察箇所

- ・奥飛騨さぼろ塾（神通砂防資料館）・・・高原川上流の砂防事業の概要（砂防設備の役割、火山性の脆弱な地質の山岳僻地における砂防工事を如何に行ってきたか使用していた道具などを用い説明します。北アルプス（焼岳）の成り立ち、現在取り組んでいる火山対策（活火山の監視モニタ、観測機器、火山防災協議会への情報提供内容、焼岳ハザードマップ）の説明を行います。また、京都大学防災研究所附属流域災害研究センター穂高砂防観測所が継続的に観測している流量・流砂量・土砂生産量等についての説明も行います。
- ・白谷砂防堰堤群・・・火山性の脆い土砂が原因となった土石流等を捉えるための砂防施設整備の状況を説明します。
- ・平湯大滝・・・焼岳火山群の噴火など繰り返されてきたジオ活動の痕跡と火山の恵みを活かした奥飛騨温泉郷の暮らしを説明します。
- ・新穂高ロープウェイ展望台・・・活火山焼岳等を眺望し、北アルプス（焼岳）の成り立ち、噴煙状況、笠ヶ岳コールドロン等を説明します。

(2) その他

- ・新穂高ロープウェイ展望台・・・日本唯一の2階建てロープウェイで、標高2,000m級の雲上の世界を気軽に体験できます。



焼岳



白谷砂防堰堤群



平湯大滝 新穂高ロープウェイ

3 留意点

- ・未舗装等足場の悪い箇所があるため、歩きやすい服装、靴で参加をお願いします。
- ・視察箇所の白谷砂防堰堤群については、砂防工事等の状況によっては、大棚等他の箇所へ変更する場合があります。